

第11話 白北風篇

風の島のお月見会

1

お元気ですか？ 風の島はまだ暑い日が続いていますが、ほんのりと秋の気配が漂ってきました。山のように大きかった雲が少しずつ小さくなって、夕方になるとトンボが舞っています。

この季節、風の島ではお月見会が開かれます。みんなでもちをついて団子をつくり、月を見ながら食べるんです。私はちょっぴり大人の味がする、ヨモギ入りのあん団子が好きです。

お月見会の夜、カゼノハズクのニーブイ博士が望遠鏡のお披露目を開いたんです。みんなで集まって望遠鏡をのぞくと、なんと、月のウサギたちが……。

2

島の西にあるバナリ研究所では、ニーブイ博士が望遠鏡の最終調整を行っていました。この30年間、眠い目をこすりながらつくった望遠鏡を、みんなに見てもらうのです。

「よし、これでいいじやろう。あとはビントを合わせれば……」

望遠鏡をのぞくと、月の広場で縄跳びをしているウサギが見えました。そのまま横を見ていくと……モジャモジャのひげを生やした博士風のウサギが、望遠鏡でこちを見ていました。レンズの中で目と目が合ったニーブイ博士は、驚いて尻もちをつきました。

「なんじゃあいつは？ ワシにそっくりなやつが月にいるぞ！」

興奮したニーブイ博士でしたが、連日の睡眠不足でまぶたが重たくなってきました。お披露目会まではまだ時間があるので、一休みすることにしました。

3

午後8時、研究所に島の人々が集まって来ました。しかし、主役のニーブイ博士はベッドの上で大きなびぎをかいています。呼びかけても、肩をゆすっても、起きる気配はありません。

「博士、悪いけど勝手に望遠鏡を見せてもらうよ！」そう言って、山猫のウェザーおじさんが望遠鏡をのぞきました。月の表面がくっきりと見えることに驚きましたが、それ以上に、ウサギたちが望遠鏡でこちを見ていることにびっくりしました。「おい！ 月のウサギたちが俺たちを観察しているぞ!!」「え!」「どういこと?」「見せて、見せて!!」

研究所は大騒ぎになって、みんなで代わりばんこに望遠鏡をのぞきました。月のウサギたちも興奮した様子でこちを見ています。興味深いことに、月のウサギたちはどこか風の島の住人に似ていました。

「私の遠い、遠い、遠い、とおい親戚かもしれないわ!」ウサコさんが目を輝かせると、みんなは紙に〈友だちになろう!〉や〈趣味は何ですか?〉、〈モチ以外は何を食べてるの?〉と書いて、月に向かって掲げました。月のウサギたちも月の表面に文字を書いて、何かを伝えようとしています。しかし、文字はニンジンを組み合わせたような形で、どう読めばいいのかサッパリわかりません。

くらびー絵本

風の島からの便り

絵 Sava 文 野原 誠喜

4

目を覚ましたニーブイ博士は、ハッと、寝る前の大発見を思い出しました。

「みんな、聞いて驚くんじゃないぞ! なんと、月のウサギがこちを見ているんじゃない!!」

「知ってるよ!!!!」

特大のツッコミを受けたニーブイ博士は、みんながニンジン文字の解説に取りかかっていると聞いて、慌てて望遠鏡をのぞきました。文字には法則性がありそうですが、なかなか読み解くことができません。

そこで、インヒヨドリのアヤカさんがムーン島の鳥たちの話をしました。

「ムーン島の言葉や文化は私たちとはまったく違うの。でも、一緒に空を飛んだり歌を歌ったりしているうちに仲良くなれたわ」

ニーブイ博士は深くうなずきました。

「そうじゃな。言葉が違っても、時間をかければ仲良くなれるはずじゃ。まずは相手を認めることから始めるのがよからう。……そろそろ時間じゃ。望遠鏡を運ぶのを手伝ってくれ」

5

午後9時すぎ、みんなで望遠鏡をガジュマル広場に運ぶと、お月見会が始まりました。今年は望遠鏡があるので、月のウサギたちもちをついて「本場の、団子づくりをする様子を見ることができます。島のみんなはウサギたちをまねて、エッサホイサツとリズムカルにもちをつき、いつもよりぷっくりと大きな団子をつくりました。

「ほーれ、ピョン、ピョン、ピョンピョンピョン!」気分が高まってきたのか、ウサコさんが即興で踊り出しました。みんなもそれにのらって、両手で耳をつくり、ぴよんぴよんと跳ねながら盆踊りのようにくるくる回ります。すると、月でもウサギたちが同じように踊りはじめました。

踊り終わると、みんなで月に向かって手をふりました。望遠鏡で月のウサギたちが手をふり返してくれる姿を見ると、38万キロ離れた月がぐっと近くに感じました。

月との交流に胸を熱くしながらも、ニーブイ博士はポツリとつぶやきました。

「誰か、ワシのつくった望遠鏡を褒めてくれんかのう……」

風の言葉

友情は、認め合うことから始まる。

風の心

白北風 (スサニスカジ)

長い夏が終わり、暑さが少し和らぐ初秋に吹く、湿度が低く爽やかな北風。白北風が吹くこの頃(旧暦の8月15日)、各地で十五夜祭が行われ、獅子舞や棒術が披露されるよ。また、沖縄ではお月見団子ではなく、「フチマギ」という肉餅をお供えし食べる習慣があるよ。